

私

の加入推進

鳥取県 北栄町農業委員
杉川 一二美 さん



6年間で10人を加入 「農業者年金は自分のものに」

夫婦で加入していた農業者年金について、加入を推進する立場になったのは、2015年5月のことでした。農業委員に就任すると同時に、農業者年金の加入推進部長になったからです。

北栄町は大栄スイカの産地で、農業が盛んな町です。その中でも私の地元・大谷地区は、農業後継者の多い地区ですので、前農業委員の加入推進で多くの後継者が加入していました。しかし女性の加入者は少ないように思い、私は友人（40代女性）に説明に行くところから始めました。ところが、彼女から質問をされても自信を持って答えられず、事務局に確認をしてはまた説明に行く。そんなことを繰り返しました。農業者年金をしっかりと自分のものにならないと安心して聞いてもらえない、と痛感しました。それでも、女手一つで子ども達を育てあげた彼女の心を掴んだのは、「貯金は自分のものにならん。農業者年金は自分のものなんよ」という私の一言でした。彼女は私が推進して初めての加入

者となりました。私は、相手の置かれた立場を踏まえて説明をすることの大切さを感じました。

いつも車の中にパンフレット

北栄町では、9月から2月まで、各委員が担当地区の加入推進ファイルに基づいて活動します。時には、以前の農業者年金が破綻したのを理由に説明さえさせてもらえず、もどかしい思いをしたことも。説明する時には、積立年金であることや、支払保険料額すべてが社会保険料控除の対象になることなどを、家族の中でも青色申告に携わる人に話すとスムーズに話が進むように感じています。

また、すぐに加入に結びつかなかった青年には、時間をおいて再度推進しています。時には1年おいてからということも。「今年も説明に行かせてね」と声をかけると、「今年は入ろうと思っています」との返事もらい、熱意は伝わるものだと実感したこともありました。若い夫婦には、「家族経営協定」を締結して、2人で国庫補助を受

け、夫婦そろって加入するように勧めています。そして私自身が実感している「家族経営協定」の必要性についても話しています。

私の6年間の加入推進で10の方が加入されました。北栄町の20年度の新規加入者は8人ですが、そのうち3人は私が声を掛けた方です。当初、お金に関連したことは家庭に一步踏み込むようで、推進の難しさを感じましたが、同じ作物を作る農家として、また人とのつながりを活かしながら推進しています。いつも車に農業者年金のパンフレットを乗せておき、スイカの出荷の待ち時間や直売所でお会った時など、それを使って年金の話をしています。

（すぎかわ ひふみ 1964年生まれ。（株）Agriすぎかわ取締役。夫と長女の3人と雇用で大栄スイカ2ヘクタールと裏作のハウス約1ヘクタールで花きと小松菜などを生産。農業委員3期目、現在、県農業委員会女性協議会副会長、指導農業士、鳥取花き振興協議会会長。県内の農業女子グループ（43人）「キラリ☆鳥取めぐりジェンヌ」代表。）